



対がん協会報

1部70円(税抜き)

第633号

2016年(平成28年)
2月1日(毎月1日発行)

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル(マリオン)13F
☎(03) 5218-4771 <http://www.jcancer.jp/>

主な
内容

2面 がん10年生存率初集計

4、5面 リレー・フォー・ライフ・
ジャパン2015年報告

6面 RFLヒーローズ・オブ・ホープ決定

がん対策加速化プラン

「予防」「治療・研究」「がんと共生」3本柱

厚生労働省は平成27年12月22日に、「がん対策加速化プラン」を発表した。プランの目指すものは、①がん検診の推進やたばこ対策、がん教育の普及などにより「避けられるがんを防ぐ」②ゲノム医療、小児がん、希少がんなどのがん研究を進めることによる「がん死亡者の減少」③がん患者の就労支援や、緩和ケアなどの研究による「がんと共生」の3つだ。

政府はがん対策の基本となる「がん対策推進基本計画」(平成24年6月)

で、平成19年度からの10年間で75歳未満のがんによる年齢調整死亡率の20%削減を全体目標としてきたが、17%にとどまることになったため、分野を絞って短期集中的に実行すべき具体策を同プランにまとめた。

昨年6月の「がんサミット」で、安倍晋三首相の指示のもと、塩崎恭久厚生労働大臣が「年内をめどに加速化プランを策定し、がん治療率の向上や患者の立場に立ったがん対策を一層推進していく」と宣言していた。

市町村別受診率公表も

「予防」については、がん検診の精検受診率の数値目標化や、市町村別の検診受診率の公表を盛り込む。死亡率削減目標達成を阻害しているとされるたばこ対策については、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて受動喫煙対策を強化するとし、「厚生労働省としてはたばこ税の税率引き上げを継続して要望する」とした。

また学校におけるがん教育の重要性についても明記。「がんの教育総合支援事業」を実施するほか、地方自治体では教育委員会や衛生主管部局が連携し、学校医、がん専門医や経験者など外部講師の活用など、地域連携体制構築を図るよう国は支援するとした。

そのほか「治療・研究」分野ではがんのゲノム医療の研究を始め、小児・AYA世代(思春期と若年成人世代)のがん対策が盛り込まれた。「がんと共生」ではハローワークを利用した就労支援や、企業への普及啓発などが示された。

がん対策加速化プラン 実施すべき具体策		
予防	治療・研究	がんと共生
①がん検診 <ul style="list-style-type: none"> 精検受診率等の目標値設定 市町村、保険者の受診率及び取組事例等の公表 保険者に対する検診ガイドラインの策定 検診対象者等へのインセンティブの導入 ②たばこ対策 <ul style="list-style-type: none"> FCTCや海外のたばこ対策を踏まえた、必要な対策の検討 厚生労働省としては、たばこ税の税率の引き上げを継続して要望 ラグビーW杯、東京オリンピック・パラリンピックに向けた受動喫煙防止対策の強化 ③肝炎対策 <ul style="list-style-type: none"> 患者の自己負担の軽減を通じた、重症化予防の推進 ④学校におけるがん教育 <ul style="list-style-type: none"> 「がんの教育総合支援事業」の実施等 	①がんのゲノム医療 <ul style="list-style-type: none"> ゲノム医療実現に向けた実態調査 全ゲノム情報等の集積拠点の整備 家族性腫瘍の検査・治療等の検討 ②標準的治療の開発・普及 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者や他疾患を持つ患者への標準的治療の検証 ③がん医療に関する情報提供 <ul style="list-style-type: none"> 患者視点で簡単に検索できる拠点病院検索システムの構築 ④小児・AYA世代のがん、希少がん <ul style="list-style-type: none"> 小児がん医療提供体制、長期フォローアップ体制等の検討 AYA世代のがん医療等の実態調査 ⑤がん研究 <ul style="list-style-type: none"> 「健康・医療戦略」・「医療分野研究開発推進計画」及び「がん研究10か年戦略」を踏まえた研究の推進等 	①就労支援 <ul style="list-style-type: none"> 拠点病院における仕事の継続を重視した相談支援の実施 ハローワークにおける就職支援の全国展開、事業主向けセミナー等の開催 産業保健総合支援センターの相談員による企業等に対する相談対応等の支援 企業向けのガイドラインの策定及び普及啓発 ②支持療法の開発・普及 <ul style="list-style-type: none"> 支持療法に関する研究の推進 ③緩和ケア <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアチームの実地研修の実施 患者の苦痛のスクリーニング方法の事例集の作成 地域連携のための訪問看護師の育成等
避けられるがんを防ぐ	がん死亡者の減少	がんと共に生きる

厚生労働省の資料より作成

がん相談ホットライン 祝日を除く毎日
03-3562-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3562-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

医師による面接・電話相談(要予約)
予約専用 03-3562-8015

日本対がん協会は、専門医による面接相談および電話相談(ともに無料)を受け付けています。いずれも予約制で、予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までに☎03-3562-8015へ。相談の時間は電話が1人20分、面接は1人30分(診療ではありません)。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

がん 10年生存率は58%

国がん研究班が初集計 肝臓がん、乳がんなどで大きく低下

国立がん研究センターの研究班「わが国におけるがん登録の整備に関する研究(班長：東尚弘)」は1月19日、全国がん(成人病)センター協議会(全がん協)加盟施設でのがん診断症例約3万5千人を10年間追跡して集計した10年生存率を初めて公表した。

全部位では約5ポイント低下

それによるとすべてのがんの10年生存率は58.2%で、同じデータによる5年生存率より5ポイント近く低かった。部位別にみると胃や大腸では5年生存率とほとんど変わらないが、乳房や肝臓では5年経過後も低下し続けていることがわかり、部位によって大きく差があることが明らかになった。

追跡した症例は県立のがんセンターや国立病院機構など全国16のがん専門病院で診断治療を受けた3万5287症例。研究に参加した全がん協加盟の32施設の中から、50症例以上、追跡率(予後判明率)90%以上などの基準を満たした16施設で1999年から2002年にがんを診断され治療を行った5歳から94歳までの症例を分析した。部位

別病期(初期から末期までの進行度合い・ステージ)別に生存率を算出した。

主な部位別の10年生存率は甲状腺が90.9%と一番高く、前立腺84.4%、子宮体83.1%、乳房80.4%、子宮頸73.6%と続く。低い方では膵臓4.9%、肝臓15.3%、胆のう胆道19.7%、食道29.7%など。

部位別の10年までの生存率の推移も明らかになった。10年生存率を算出した同じデータベースで比較すると、全部位は5年生存率が63.1%に対して10年生存率は58.2%だった。胃がん、大腸がんは5年、10年とも約70%とほとんど変化がないのに対し、乳がんは5年が88.7%で10年は80.4%、肺がんも5年が39.5%で10年は33.2%と低下している。一番差が大きいのは肝臓がんで5年が32.2%に対し、10年は15.3%と大きく低下していた。

臨床現場の実感、データで裏付け

今回の結果について、千葉県がんセンターの三上春夫がん予防センター部長は「10年の予後調査はまだ実験的なので単純比較は危険」と断りながらも、「部位によっては何年たっても再発の可能性がある、定期的な受診が大事」と解説し

た。堀田知光国立がん研究センター理事長も「臨床の現場では以前から10年みましようと言っていたが、データの裏付けが公表できるようになった意義は大きい」と話す。同時に「今回分析した症例は過去10数年前に遡ったもの、当時は分子標的薬など新しい医療が始まって間もないころ。医学の進歩によって、今診断された人の10年後の生存率は変わっているだろう」と補足した。

同センターの若尾文彦がん対策情報センター長は「がん登録がきちんと行われることによって、より信頼性の高い生存率が算出できるようになる。今回も部位によっては長期にわたるフォローが必要なことが明らかになった。ぜひ定期的に検診を受けて欲しい」と話した。

集計結果は全がん協のホームページで公開されている。同時に公開された別のデータベース(2004年から2007年までに診断治療を行った症例の内、条件を満たした14万7354症例)を元にした最新の5年生存率も見ることができる。また、同ホームページでは生存率解析システムKapWebも公開されており、性別や年齢、がん種、受けた治療法などさまざまな条件設定で検索し、自分に似た症例の5年または10年生存率を知ることができる。

不安になる人も。ホットラインにも相談

19日の記者発表会の直後から、新聞各紙やテレビニュース、ワイドショーなどでも大きく取り上げられた。がんについては一般に5年間が治療の目安とされてきたため、5年目以降も部位によっては生存率が下がるという分析結果にショックを受けたがん経験者もいるようだ。日本対がん協会のがん相談ホットラインにも、記事を読んで眠れなくなったとか、公表された中に自分のがんが入っていなかったのは、予後が悪いからなのかと疑心暗鬼に陥ったり、ただでさえ治療を続けるのが不安なのに、10年生存率がこんなに悪いなんてと悲観的になったりしている相談者もいた。ホットラインでは相談者の不安な気持ちに寄り添い、10年生存率についてもわかりやすく説明するよう心掛けている。

5大がんの部位別生存率(% 1999年から2002年診断症例)

部位	5年生存率	10年生存率	症例数(件)
全部位	63.1	58.2	35,287
胃	70.9	69	6,413
大腸	72.1	69.8	3,115
乳房	88.7	80.4	4,416
肺	39.5	33.2	6,100
肝臓	32.2	15.3	1,700

主ながんのステージ別10年生存率(% 1999年から2002年診断症例)

部位	ステージ				全症例
	1	2	3	4	
食道	64.1	36.9	15.4	4.8	29.7
胃	95.1	62.7	38.9	7.5	69
大腸	96.8	84.4	69.6	8	69.8
肝臓	29.3	16.9	9.8	2.5	15.3
胆のう胆道	53.6	20.6	8.6	2.9	19.7
膵臓	29.6	11.2	3.1	0.9	4.9
肺	69.3	31.4	16.1	3.7	33.2
乳房	93.5	85.5	53.8	15.6	80.4
子宮頸	91.3	63.7	50	16.5	73.6
子宮体	94.4	84.2	55.6	14.4	83.1
前立腺	93	100	95.6	37.8	84.4
甲状腺	100	100	94.2	52.8	90.9

がん教育レポート

豊島区立千川中学校 課題別学習でがんについて学ぶ

日本対がん協会は1月16日、東京・豊島区の豊島区立千川中学校でがん教育の出張授業を行った。豊島区では地域の人たちも授業を見学できる「としま土曜公開授業」を実施している。同校でもこの公開授業の中で年に2回「課題別学習教室」を行っている。現代社会が抱えるさまざまな課題を理解するきっかけ作りになるような、複数のテーマの出前授業を用意し、生徒それぞれが好きな授業を2つ選んで聴講できる仕組みだ。

今年度の後期に用意された授業は「租税」「国際協力」「法教育」「金融教育」「がん教育」「感染症予防」の6つ。それぞれ東京税理士会、JICA、東京弁護士会などが協力して開講した。同校の岡泉美和子副校長は「各分野で活躍している方たちの話を聴くことで、世の中には色々な職業、役割があるのだということを知るきっかけになれば。キャリア教育の一環とも位置付けています」と話す。

この日の授業の対象は1年生と2年

生。日本対がん協会が協力した「がん教育」には2回の授業で合わせて71名の生徒が参加した。講師は順天堂大学大学院教授で、がん経験者でもある佐瀬一洋先生。昨年も千川中学で出張授業を行っているので、教室には昨年について佐瀬先生の授業を選んだ生徒も何人かいた。

この日のタイトルは「お医者さんが患者さんになって感じたこと、考えたこと」。中学校側からのリクエストもあり、がんと診断されてからの自身の体験を中心に話した。当時、患部である脚を切断しても余命2年と言われていた骨軟部肉腫と診断された時の衝撃、絶望の中ハーバードの論文で見つけた最新の治療法に希望を見出し、2年間にわたる苦しい抗がん剤治療と手術に耐えて生還したこと。普通の生活を送ることの素晴らしさを語る佐瀬先生の話に生徒たちも熱心に聞き入っていた。

がんと診断されてからの心の変化を



自らの体験を話す佐瀬教授

詳しく説明し、自らの経験から「頑張って医学や科学を進歩させてくれた人たちのおかげでこうして元気になった。みんなは今やっている勉強が何の役に立つのかと思っているかも知れないけれど、将来きっと役に立つ。正しい知識を持つことはとても大切。知識があれば、いざ危ない時にも大丈夫なんだよ」と優しく語りかけた。

2回目の授業ではがんの基礎知識を教える時間を増やした。生徒たちの反応を見ながら質問を増やして生徒たちの積極的な発言を引き出したり、要所所で対がん協会が作成した映像教材『がんちゃんの冒険』や『がんって、なに?』の動画を挿入して、生徒たちの興味や集中力を高める工夫を凝らした。生徒たちもリラックスして活発に発言していた。

参加した生徒たちは「がん教育」を選んだ理由を「病気になった人がいるから、詳しいことを知りたかった」「がんになった人の話が聞きたかった」などと話した。



活発に発言する生徒たち

参加した生徒の感想より

- がんになった人ががんのことについて詳しく説明してくれた。がんになると今までの「普通」の生活が恋しくなるので、あたり前の日常や今をもっと大切にしたいと思った。自分ができることもいくつかあったので、タバコの煙を避けるなど今日からできるようにしていきたいです。
- この講座は前回は受講しましたが、今回は先生より詳しい体験談やがんの真実に迫ることができ、とてもためになりました。
- 僕が一番格好良いと思う職業は医者です。なぜなら、医者というのは人を救う職業だからです。これからも今日教えてもらったことを忘れずに医療について学びたいと思います。
- 僕は今まで「がんになる＝死に至る」だと思っていました。けれど、必死に治療に取り組めば治ることが知れて良かったです。予防する方法をいくつか教わったので、将来がんにならないようにしていきたいと思います。

特集 リレーフォーライフ・ジャパン

2015年リレー・フォーライフ・ジャパン イベント報告

がん征圧・患者支援を胸に47会場でイベント開催

過去最多、82,019人が参加 各地実行委員会からの寄付総額は5360万円

RFLJ統括マネジャー 岡本宏之

2015年度も全国47会場でリレー・フォーライフ・ジャパン(RFLJ)イベントを開催することができました。イベント報告をかねて、応援していただいた皆さまに改めてお礼を申し上げます。

2015年度は47地区のイベントに82,019名(内サバイバー4,401名、1,513チーム)がご参加いただいたほか、facebookでも更に多くの方々に応援いただきとてもうれしく思います。

RFLの活動内容は多岐に渡りますが、2日間にわたって開催されるリレーイベントはがん患者支援の中核であり、年間の活動の締め括りでもあります。2015年度は、一宮(愛知)、鶴岡(山形)、青森、釜石(岩手)、新潟、佐賀、浦添(沖縄)の7か所で新規開催もできました。

昨年も全国各地でボランティアの実行委員や学生にご活躍いただきました。がんという身近な病気をより多くの人に知って欲しい、正しい情報を身につけて欲しいと願う草の根運動なのです。参加者を募るために、知り合いへの口コミやマスコミを通じた広報活動が行われました。2,300もの募金箱が全国のお店や会社に設置され、リレーイベント時に集計されました。特設テントによる禁煙啓発や医師のトークセッションが多くの会場で実施されました。対がん協会グループ支部のご協力により、各地のリレー会場で12台の検診車がフル稼働し、早期発見・早

期治療を訴えました。

主役であるサバイバーの方々の参加は特別な意味を持っています。会場は、彼らの命を讃える場です。勇気を振り絞って参加したサバイバーには交流テントが用意され会話が弾みます。学生との交流を重んじる会場もありました。

新規開催地新潟の実行委員長である伊勢みずほさん(乳がんサバイバー・フリーアナウンサー)は、ご自分のブログの中でこう書いています。「エンプティテーブルが始まる前、人前で初めてウイッグをとった。参加してくれた皆さんが、みんな頑張って小さな一歩を踏み出しているのを見ていたら、私も、という気持ちになっていた」。彼女は数百のキャンドルの炎に囲まれ、ある小学生サバイバーの詩を読み上げました。その姿はとても神々しく、その勇気とがんに立ち向かう姿勢は多くの人の涙を誘いました。

もちろん新潟会場だけではありません。どの会場にも多くの方が笑って、泣いて、抱き合って、参加したことを心から喜んでくださいました。ルミナリエで描いたHOPEの文字が一晩中



(愛知・一宮) みんな笑顔でファイナルラップ

灯り、夜通し歩き続ける人たちを明るく照らしました。夜明けの一瞬、紫に染まるドーンパープルは我々のシンボルカラーです。ですから、我々は一年中紫のリストバンドをつけて活動しています。

ご支援いただいた各地のボランティア実行委員の方々、常に日本対がん協会を支えてくださっているボランティアブロックスタッフ、RFL委員、それに協会支部の皆様、ありがとうございました。1年間のリレー活動を通じて、47の実行委員会からは53,597,298円のご寄付をお預かりしました。その他多くの個人、企業・団体各位からの多額のご寄付に対しても、改めて深く御礼申し上げます。

RFLJは今年2016年に10周年を迎えます。2006年の茨城県つくばのプレ開催を経て、2007年兵庫県芦屋から本格的に始まりました。

過去のRFLJを思い起こすと、一人ひとりの想いが今のRFLJに託され繋がっている事、今のRFLJは間違いなく皆さんによって支えられていることを強く感じます。これからの10年、20年、今の命をしっかりと讃え、どうすれば私たちが子供たちにとって輝く未来を残せるか、10周年を機に一緒に考えて行きましょう。



(岩手・釜石)ルミナリエをセットする学生ボランティア



(新潟)エンプティテーブルで朗読する伊勢さん

特集 リレーフォーライフ・ジャパン

リレーフォーライフ・ジャパン 2015年度 収支報告一覧

【各地の実行委員会からの報告を集計】

	月	日	都道府県	地区	参加人数	チーム数	サバイバー数	ご寄付総額	実行経費	ACS 寄付	協会寄付	振込額	寄付率
1	5	9・10	鹿児島	鹿児島	2,000	59	82	3,016,954	2,238,794	150,848	627,312	778,160	25.8%
2	5	16・17	茨城	つくば	850	23	87	1,761,568	1,053,156	88,078	620,334	708,412	40.2%
3	5	16・17	熊本	熊本	916	34	104	1,970,784	980,654	98,539	891,591	990,130	50.2%
4	5	23・24	和歌山	和歌山	1,500	41	200	2,140,775	1,142,910	107,039	890,826	997,865	46.6%
5	6	13・14	青森	八戸	2,600	31	80	2,003,279	1,320,373	100,164	582,742	682,906	34.1%
6	6	13・14	兵庫	神戸	1,300	50	82	2,972,809	1,971,663	148,640	852,506	1,001,146	33.7%
7	6	27・28	愛知	一宮	611	23	103	835,575	232,488	41,779	561,308	603,087	72.2%
8	8	8・9	千葉	八千代	900	15	100	1,231,354	474,034	61,568	695,752	757,320	61.5%
9	8	22・23	宮城	仙台	743	16	10	1,427,103	1,157,731	71,355	198,017	269,372	18.9%
10	8	22・23	山形	鶴岡	200	0	19	510,877	401,760	25,544	83,573	109,117	21.4%
11	8	22・23	福島	福島	3,000	41	250	4,851,463	2,677,394	242,573	1,931,496	2,174,069	44.8%
12	8	29・30	北海道	室蘭	900	20	50	2,503,822	1,618,685	125,191	759,946	885,137	35.4%
13	9	5・6	青森	青森	1,000	26	53	2,316,526	1,813,244	115,826	387,456	503,282	21.7%
14	9	5・6	福井	福井	705	28	140	1,369,974	934,542	68,499	366,933	435,432	31.8%
15	9	5・6	兵庫	芦屋	2,000	56	200	4,119,585	3,474,127	205,979	439,479	645,458	15.7%
16	9	5・6	広島	広島	1,300	32	124	4,052,656	1,502,656	202,633	2,347,367	2,550,000	62.9%
17	9	12・13	岩手	釜石	306	10	23	805,574	501,470	40,279	263,825	304,104	37.7%
18	9	12・13	岩手	一関	1,500	47	35	3,489,100	1,987,158	174,455	1,327,487	1,501,942	43.0%
19	9	12・13	埼玉	さいたま	2,200	39	84	3,223,063	2,171,270	161,153	890,640	1,051,793	32.6%
20	9	12・13	長野	長野	3,500	29	100	4,377,365	1,602,249	218,868	2,556,248	2,775,116	63.4%
21	9	12・13	長野	松本	850	25	35	2,071,297	1,861,241	103,565	106,491	210,056	10.1%
22	9	12・13	静岡	静岡	1,842	34	82	3,141,434	1,076,063	157,072	1,908,299	2,065,371	65.7%
23	9	12・13	福岡	福岡	1,265	37	102	2,155,825	1,430,287	107,791	617,747	725,538	33.7%
24	9	19・20	栃木	壬生	2,000	43	345	7,766,636	3,546,719	388,332	3,831,585	4,219,917	54.3%
25	9	19・20	埼玉	川越	2,500	50	120	3,162,817	1,892,922	158,141	1,111,754	1,269,895	40.2%
26	9	21・22	新潟	新潟	1,200	19	73	3,209,270	2,021,146	160,464	1,027,661	1,188,124	37.0%
27	9	22・23	神奈川	新横浜	1,000	51	60	1,139,223	563,717	56,961	518,545	575,506	50.5%
28	9	26・27	東京	台東	12,000	59	202	5,694,086	1,135,713	284,704	4,273,669	4,558,373	80.1%
29	9	26・27	神奈川	横須賀	500	8	12	318,652	75,893	15,933	226,826	242,759	76.2%
30	9	26・27	愛知	岡崎	3,632	47	260	3,068,125	1,538,672	153,406	1,376,047	1,529,453	49.8%
31	9	26・27	佐賀	佐賀	2,000	38	120	3,550,129	3,037,645	177,506	334,978	512,484	14.4%
32	10	3・4	神奈川	横浜	500	17	16	1,605,780	735,780	80,289	789,711	870,000	54.2%
33	10	3・4	静岡	長泉	520	13	31	1,243,336	515,308	62,167	665,861	728,028	58.6%
34	10	3・4	奈良	大和郡山	764	41	68	1,514,999	813,283	75,750	625,966	701,716	46.3%
35	10	3・4	徳島	徳島	924	10	23	860,308	609,869	43,015	207,424	250,439	29.1%
36	10	3・4	宮崎	延岡	962	38	38	2,985,373	2,197,027	149,269	639,077	788,346	26.4%
37	10	10・11	愛知	豊川	380	14	18	1,262,449	327,598	63,122	871,729	934,851	74.1%
38	10	10・11	岐阜	岐阜	511	24	82	1,137,064	196,984	56,853	883,227	940,080	82.7%
39	10	10・11	徳島	小松島	200	20	38	489,162	61,713	24,458	402,991	427,449	87.4%
40	10	10・11	高知	南国	1,500	37	50	2,676,244	2,085,504	133,812	456,928	590,740	22.1%
41	10	10・11	大分	大分	6,000	58	175	4,143,334	757,377	207,167	3,178,790	3,385,957	81.7%
42	10	11・12	大阪	大阪	800	30	33	1,071,438	266,925	53,572	750,941	804,513	75.1%
43	10	17・18	群馬	前橋	6,850	69	152	5,738,841	3,634,546	286,942	1,817,353	2,104,295	36.7%
44	10	17・18	愛媛	松山	2,314	37	64	4,957,159	3,360,257	247,858	1,349,044	1,596,902	32.2%
45	10	24・25	滋賀	近江八幡	1,280	27	100	1,798,318	615,185	89,916	1,093,217	1,183,133	65.8%
46	10	31・11/1	大阪	貝塚	834	33	28	1,290,482	845,965	64,524	379,993	444,517	34.4%
47	11	14・15	沖縄	浦添	860	14	148	2,036,752	1,011,744	101,838	923,170	1,025,008	50.3%
	2015年度 合計 (47会場)				82,019	1,513	4,401	119,068,739	65,471,441	5,953,437	47,643,861	53,597,298	45.0%

*ACS 寄付＝アメリカ対がん協会に対するロイヤルティ

寄付金は日本対がん協会を通して、がん医療の発展のための「プロジェクト未来」「若手医師育成奨学金」や患者支援「がん相談」「検診の推進」に役立てられます。一部はRFLの運営資金に充てられます。

グローバル・リレー・フォー・ライフ

「2016ヒーローズ・オブ・ホープ」受賞者決定

「ヒーローズ・オブ・ホープ」は、アメリカ対がん協会(ACS)から認定される荣誉ある賞。自らの病と闘い、人々に希望や勇気を与え、前向きにがんに向かうサバイバー(がん経験者)の代表として、リレー・フォー・ライフ(RFL)に参加する世界各国から選ばれる。日本では日本対がん協会がACSに推薦し、本年度は全世界から26名が選出され、日本からは2名が選出された。(五十音順)

RFLでがんに関心のない地域社会を作りたい

小渡章好さん(RFLJ2015八戸実行委員長)

小渡さんは65歳の時に大腸がんと診断された。そのことを知り合いに告げると2種類の反応があったという。

親切心からの言葉だろうか「がんであることをあまりオープンにしないほうが自身のためだ」という人、そして「自分もがんだが、今まで誰にも言えなかった」という人。地域でがんがタブー視され、たくさんの人が偏見を恐れ一人でがんと向き合っていたことに驚愕し、この状況を変えようとRFLを開催することを決意した。

2013年、初開催のRFLJ八戸の実行委員長を務めたときは化学療法の最中で副作用もあったが「もっとつらい治療、つらい状況でがんばっている他のサバイバーに比べればなんでもない。そういう人たちのために絶対にRFLを開催したい」と無私無欲で務めた。

小渡さんと奥さんはがんを乗り越えるために必要な知識と勇気をRFLから得たという。サバイバーやケアギバー(支援者)にとって適切な情報や知識を得ることが、がんに向かう上でどれだけ重要かを知り、現在は地域の集まりで講話をするなど、がんの啓発活動も行っている。今後は地域の子どもたちへの講話も行いたいという。

「次の世代のためにも、がんに対する偏見をなくし、サバイバーとケアギバーが安心して自らの経験を共有することができる地域社会を作るため、RFLが大きな役割を果たしてくれることを願っています」。

受賞後のコメント

望外の光栄です。この荣誉を八戸の仲間とともにいただき、青森のみな



さんにもシェアします。お世話になった鈴木牧子さん(2015年の同賞受賞者)にも感謝です。

「がんになってよかった。仲間と一緒に毎年RFLができるのが何よりうれしいから」というサバイバーの方たちが、私たちの背中を押してくれま。この受賞をRFLの大家・先達から、今後の活動への強い励ましと受け止め、心新たに取り組みたいと思います。

暗闇から光のある世界へ連れ出してくれたRFL 時森由佳さん(RFLJ中四国ブロックスタッフ)

時森さんは34歳の時に乳がんとわかった。適切な治療を受けて病を乗り越え、幸せな日々が戻ってきたと思ったのもつかの間、39歳の時に今度は肺転移が見つかった。当時は「暗闇の中に生きていくような日々だった」という。

その暗闇に希望の光を見つけたのがRFLだった。2009年、初開催のRFLJ広島に参加し、サバイバーと思われる少年が周回カードを手にトラックを必死に走っているのを見た時「こんな小さな少年が大きな努力をして、自分のできることをやっている。私もできることをやろう」と強く思ったそうだ。

それ以来、RFLは時森さんの生活にとって大きな存在になった。今では日本対がん協会のRFLJ中四国ブロックスタッフとして近隣の活動を支援

している。さらに所属する患者会では、小中学生向けに命の大切さを伝える特別授業を行うなど精力的に活動している。体力を維持し、つらい治療にも希望をもって向き合えるのはすべてRFLがあるからだという。「RFLは出会いの場所。人が集い、ストーリーや経験を共有し、問題も共に乗り越えていく可能性がある場所。このような場所が、すべてのコミュニティで必要だと強く感じています」。

毎年RFLに参加して、友人や新しい仲間に出会うことがとても楽しみだという。同時に、亡くなった方の遺志を尊重するために毎年RFLに参加し続けたいという思いもある。「リレーイベントの最後にはさようならではなく、また来年ここで会いましょうと言っています」。



時森さんの活動や言葉は、かつて希望を与えてくれた少年のように、今がんと闘う多くの方の人生に希望をもたらしていることだろう。

受賞後のコメント

このたびの選出は、RFL仲間とともに受賞したものだと思います。「自分はなぜRFLに参加しようと思ったのか」この気持ちを忘れず、RFLのバトンを繋げていきたいと思います。

Topics

デザインの力でがんを減らそう！ 第4回がん征圧ポスターデザインコンテスト作品募集中

日本対がん協会では、高校生以上の学生を対象に「がん征圧ポスター」のデザインを募集しています。若い世代の新鮮な感性とアイデアでがんの早期発見、早期治療を呼びかけ、デザインの力でがんに苦しむ人を一人でも減らしてください。

最優秀賞の作品はポスターにして全国の自治体や保健所、医療・検診機関などに約5万枚掲示し、副賞として10万円を贈呈します。また、9月のがん征圧全国大会(京都市)で表彰します。ぜひご応募ください。

- エントリー及び作品募集期間 2016年1月12日～3月31日(消印有効)
- 作品テーマ 「がん検診に行こう」
- 応募資格 高校生・大学生・大学院生・短大生・専門学校生
グループ応募も可(ただしメンバー全員が応募資格を有していること)
- 贈 賞 最優秀賞1点:ポスター化し、約5万枚掲示します。副賞 賞金10万円
優秀賞3点
- 主 催 公益財団法人日本対がん協会
- 応募方法 コンテスト公式サイトでエントリーのうえご応募ください(応募の詳細は同サイトでご確認下さい)。手書きでの応募も歓迎します。

公式サイト <http://www.jcsposter.com>

お問い合わせ 日本対がん協会(TEL:03-5218-4771)広報担当 岩井



昨年最優秀作品

はい座布団一枚！



滋賀支部から

草の根で広げるがん啓発の輪

公益財団法人滋賀県健康づくり財団 保健師 小林 恵

当財団では、平成25年度から、県内の患者団体、医療機関、民間企業、さらには報道機関等で実行委員会を組織し、行政主導ではなく、民間レベルの活動として、がん検診の受診率向上を目指した啓発活動「滋賀県がん対策推進イベント」を実施しています。

平成25年度、26年度はがんサバイバーの講演を中心としたイベントの開催に併せて、「がん予防コーナー」「早期発見コーナー」「闘病を支えるコーナー」のテーマに分けて、様々な団体がブースを展示してイベントを盛り上げました。また、イベントの実施に際しては、多くの企業や団体から資金や物

品、役務のご提供をいただきました。そうして実現したイベントには、多くのがん患者や家族、一般県民、関係機関や団体が参加し、県民と多くの団体が一体となって取り組むイベントとなりました。

しかし、「講演会形式のイベントでは、がんに関心のある人しか参加しないのではないか」という意見から、今年度は、広く県民を対象にした取り組みとして、県内数か所の商業施設のイベントホールをお借りして、キャラバンイベントを実施しています。実施に際して、前年度までと同様の関係機関や団体からの協力を得たほか、県内芸術系大学のご協力でキャラバン隊の象徴となる「がん検診ススム隊」の旗印を作製し、キャラバンイベントの会場となる各地域の学校や団体には、合唱やステージショーで会場を盛り上げていただくなど、「がん検診ススム隊」の輪が大きく広がって

います。

当財団の職員だけで実施できる啓発活動には限界がありますが、多くの関係団体が連携することで、効果的で効率的な啓発活動を実施することが可能になったと実感しています。ご縁あって協力していただいた団体、参加していただいた県民の皆さまが、がんを正しく理解し、その知識を波及させることで、さらにはがん対策の推進が図れるものと期待しています。

来年度以降も取り組みの輪をさらに広げ、がん対策推進のための活動を強化していきたいと考えております。

(こばやし めぐみ) 1990年滋賀県立保健師学校卒業後滋賀県庁に入庁し、8年間県内の保健所に勤務。2007年に公益財団法人滋賀県健康づくり財団に就職し、現在に至る。



がん検診ススム隊が集合

USA Report 2016

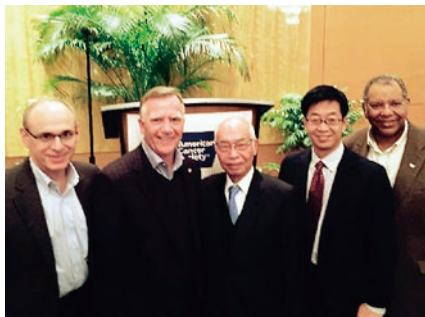
シカゴ大学、ACS、NCICを訪ねて

2016年1月11日から14日にかけて、垣添忠生会長とともにアメリカに出張した。リレー・フォー・ライフ(RFL)に寄せられた寄付金を基に実施されるRFL MOD奨学医プログラムの新たな受け入れ先となるシカゴ大医学部と、ACS(アメリカ対がん協会)の訪問が主な目的だ。

新たに奨学医を派遣

11日、シカゴ大との橋渡しをしてくれた中村祐輔教授ら関係者に本プログラムの趣旨説明。面会したすべての教授はプログラムを好意的に受け止め、指導医としての協力を約束してくれた。中村ラボの研修医5名も交え、日米を比較しながら医療研究や制度についてディスカッションした。ダイバーシティに恵まれたシカゴで、環境を活かし、価値ある臨床研究に励んでくれることを期待したい。

12日はアトランタに移動し、開催中のACS Volunteer Summitに途中参加。CEOのゲイリー・リーディは我々を暖かく迎え、RFLジャパンの10周年のお祝いを述べてくれた。ACSとJCS(日本対がん協会)はRFLのパートナー契約のみならず、国を代表するCancer Societyの同志としてさらに強く結びついてゆくべきだ。ACSから学ぶべきものは多い。



ゲイリー(左から2番目)と垣添会長(中央)その隣が筆者

13日はACS本部を訪問し、ファンドレイジング部門、マーケティング部門、コーポレートスポンサーシップ、キャンパスリレーの担当者から詳しい説明を受け意見交換した。2015年に組織再編したばかりのマーケテ

ィング部門の新メンバーは、みな外部組織でマーケティングの実務経験があるプロフェッショナル。2015年から始まった人間的感情面に訴える‘ADVANTAGE HUMANS’が戦略テーマだ。TVCM、雑誌、Web、ソーシャルメディア等を利用し、業績の巻き返しを図る。



感情に訴える広告キャンペーン

キャンパスリレーについてのプレゼンテーションも印象的だ。現在4人に1人は学生リレーヤーで、年間約600のキャンパスリレーイベントが開催され、年間寄付額も36億円に上る。ACSは将来のリーダー育成として、禁煙をはじめとした啓発のターゲットとして、そして寄付のためにも学生たちに大いに期待している。「成功の鍵は、オンラインとSNSの活用、それにEngagementが欠かせない」と担当のニコルという。日本もしかり。今年も数か所でキャンパスリレーをテスト開催し、レビューした後、今後着実に広めてゆきたい。

14日はオースティンのNational Cancer Information Center (NCIC)を訪問。NCICは1997年設立のACS全米情報ネットワークを集結した機関で、がんの電話相談のみならず、治験情報、健康保険などについてスペイン語はもちろん、チャットでは多言語で対応している。そのほか一般・遺贈寄付対応、メディア対応など多岐にわたって情報発信している。相談者からの電話は年間で100万件を超える。がんに関しては「24時間365日対応、フリーコール」が売りで、総員450名が、

日夜働いている。

患者相談を受け持つナースのジャッキーに話を聞いた。相談は平均20～30分、最長90分ということも。相談者はさまざまな感情と性格をもった人たち。辛抱強く傾聴することを心がける。良い医者や病院を聞かれても具体的なアドバイスはしないが「それで…『あなたは』どう思う?」と聞かれ困ることもあるという。



患者相談を受け持つジャッキー

「どんな電話にもNOを言わない」とNCICのバイス・プレジデント、ケビンと言う。NCICはアメリカの企業・団体の顧客満足を計るAmerican Customer Satisfaction Index (ACSI)で、85ポイントという高評価だ。肉体的にも精神的にもタフな仕事を支えるため、いたるところにリラクゼーションスペースを用意して従業員のケアを心がけている。モチベーションを高める月間アワードや情報交換の掲示板も印象的だ。

今回の出張を通じて感じたのは「プロフェッショナルイズム」だ。それぞれがプライドをもち仕事に取り組んでいる。折しも1月12日にオバマ大統領の一般教書演説が行われた。「アメリカはがんを治癒させる国だ!」がん撲滅プロジェクトの発起を誓う映像がVolunteer Summitに流れると、会場は総立ちになった。ACSはロビー活動を積極的に行い、「オバマケア」の立案にも一役かっている。

がんに負けない日本をつくるために我々の使命と役割、そしてビジョンを今一度考えるべきだと感じている。

RFLJ統括マネジャー 岡本宏之